

まえがき

本報告書は、アジア経済研究所で2010年度から2年間の予定で実施している「差異との共存：開発途上国における寛容の政治」研究会の1年目の成果の一部である。

本研究会では、開発途上国において民族、信仰、思想上の違いを容認する態度や制度はどのようにして形成されるのかを設問とし、個人、集団、国家という3つの次元での要因が寛容に与える影響を、インド、トルコ、カザフスタンを例に分析する。その過程で、政治的に不安定なあるいは民主主義的保障が不十分な体制下で寛容がどのように形成されるかという途上国に特有な問題への示唆を導き出す。

これまで民族や宗教などの集団的差異は、紛争の原因として語られ、分析されることが多かったが、本研究会は、それらの集団的差異と共存するために開発途上国においてどのような政治意識や政治体制が働いているに注目した。そして、(1)民族・宗教的差異への寛容の態度を規定する要因、および(2)民族・宗教的紛争を収束させるうえでの政治制度の役割を明らかにすることを試みる。

たとえば、インドのパンジャブ州でのシク教徒とヒンドゥー教徒の間での激しい民族紛争は、政治過程を経ることにより収束した。トルコでは世俗派の信仰派への、およびその逆の寛容性が民主主義体制定着のうえでの大きな課題となっている。カザフスタンでは民族問題の非政治化が体制を安定させる作用を果たした。本研究会ではこのような事例を取り上げつつ、設問への答えを探る。

研究会1年目では一般論および国別の先行研究の知見を統合的に整理するとともに各国別の定性・定量データ収集を行った。2年目には1年目の作業を元に最終成果となる論文を完成する。

本報告書の執筆者は、地域研究センター所属の近藤則夫、岡奈津子、間 寧である。

2011年3月

編者

第 1 章
寛容についての先行研究概観

間 寧

はじめに	1
第 1 節 寛容の概念的および操作的定義	1
第 2 節 個人別決定要因	2
第 3 節 状況要因	5
おわりに	7

第 2 章

インド、パンジャブ州の「競り上げ」の政党政治の理解のための予備的考察
近藤 則夫

はじめに	17
第 1 節 政党政治の競合激化とパンジャブ紛争	18
第 2 節 エスニック集団間で分裂した社会における「競り上げ」と連合の政治 25	
おわりにかえて	32

第 3 章

独立後のカザフスタン政治に関する先行研究概観

岡 奈津子

はじめに	38
第 1 節 民族問題	39
第 2 節 政治体制	40
まとめ	42